



あいぷろイベントで出会う

いつもの自分に勇気をプラス
交際スタート

緑さん 女性・30代後半

県内の企業に勤務。30代前半に結婚・出産とライフイベントを迎える友人の影響を受けて婚活スタートしました。夢を追うために一旦お休みし、2024年から「やっぱり結婚しよう」と婚活を再開。「30代後半のリアルな体験談を同志に届けたい」と話を聞かせてくれました。趣味は、料理、旅行、神社巡り、お花など。

レポータープロフィール

結婚観▶お互いに高め合うことのできる関係が理想

やりたいことがハッキリしている人生だったこともあり、結婚相手に求めるのは精神的に支え合い、高め合っていける人生のパートナーという関係。家事は仕事の忙しさに応じて分担できれば、子どもはパートナーと相談して決めたいと思っています。

婚活のきっかけ▶環境落ち着き、婚活再開

家族から「結婚しなさい」というプレッシャーはなし。焦らされない恵まれていた環境でリラックスしつつも仕事の環境が変わり、生活が落ち着いてきたタイミングで再び結婚を意識するようになりました。婚活パーティーに6度参加。

30代前半と後半で相手に望む条件に変化

婚活第1期は30代前半。30代後半になった今、第2期を迎えました。「相手に求めることは、第1期と第2期では明らかに変わりました」と緑さん。

第1期に理想だと思っていたのは「よくしゃべる私をなぎ倒す勢いでしゃべる人」。年齢は±10歳、居住地は近隣市町村、職業・学歴は不問、年収は暮らしていければ200万円台でもOKと条件が広範囲だったため、的が絞りがきれていなかったのかもしれない。

実際に何人かと会ううちに、気持ちに変化が生まれます。30代後半である第2期になると「譲れない」と思うことが自分の中で明らかになっていきました。それが人柄でした。「穏やかでニコニコしていて、一緒にいると気持ちが明るくなる人」。どんなに他から褒められたり、素晴らしい何かを持っていたりする人でも、暗い気持ちになる人と一緒にいてはいけない、と思うようになったのです。そして年収は「暮らしを考えると、自分と同等か可能であればそれ以上の収入を得ている人」と現実的なもの

に変わっていきました。

職場で結婚した人がいる「あいぷろ」に参加交際に発展するが…

第2期は「あいぷろ」のイベントで幕を開けました。職場内に「あいぷろ」で出会って結婚した人が2人もいたと知ったことがきっかけで、あいぷろイベントに参加。そのときにカップリング率が高く、参加した男性に良い人が多かったイベントの主催者を覚えていたのです。その後もその会社が主催する「あいぷろ」イベントを発見し、参加することにしました。

男性はジャケット着用、女性はオシャレな服とドレスコードがあったため、緑さんはニットに薄手のワイドパンツ、ハイヒールと落ち着いたきれいめの服を選んで、いざ参戦。参加者は男女各10人で、合計20人。30代前半の人が多かったそうです。

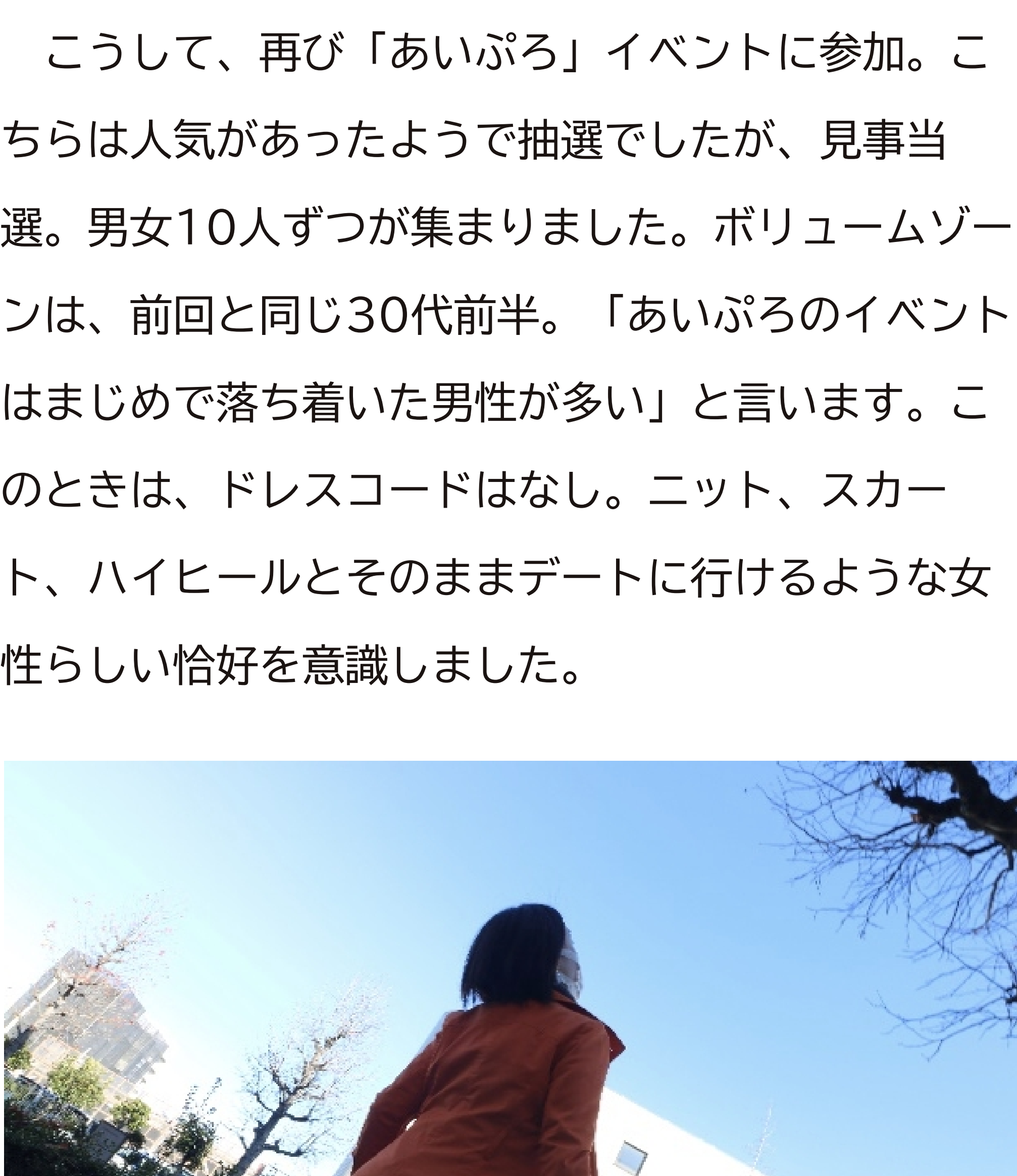
まずは、プロフィールカードに、年齢・趣味・出身地・在住地・職業・休日の過ごし方などを記入。次にそれを元に一人あたり約5分間ずつ話す「トークタイム」に移ります。印象の良かった2~3人をチェックした用紙をスタッフに渡したあと、誰が自分に好感を持っているのかが記された用紙が配られます。その後、気になった人と話す20分ほどの「フリータイム」。途中でスタッフがパートナーチェンジを呼び掛けてくれるので、自然なかたちでシャッフルできます。それが終わると印象の良かった人を第1~3希望まで記入し、いよいよカップル発表。驚くべきことに70%がカップルになったそうです。成立した人たちだけが残って連絡先を交換。緑さんもカップルになった男性とLINEを交換してカフェへ行き、次回の約束をしました。

1週間後に食事へ、その後も食事やアウトドアデートを重ねますが、価値観の違いから2カ月で別々の道を歩むという選択をしました。

友達に相談、泣きながら活動続投再びイベントに参加

「1カ月くらいは気持ちを切り替えられなかった」という緑さん。友達に打ち明けると「それは辛かったね」と共感してくれたそう。聞いてくれるだけで心が楽になり、気持ちは完全に立ち直っていませんでしたが「いい学びになった」と自分に言い聞かせながら次のパーティーを探したそうです。「結婚したい」という明確な目標がモチベーションになりました。

こうして、再び「あいぷろ」イベントに参加。こちらは人気があったようで抽選でしたが、見事当選。男女10人ずつが集まりました。ボリュームゾーンは、前回と同じ30代前半。「あいぷろのイベントはまじめで落ち着いた男性が多い」と言います。このときは、ドレスコードはなし。ニット、スカート、ハイヒールとそのままデートに行けるような女性らしい恰好を意識しました。



4人1組でテーブル席につき、和やかな雰囲気でご自己紹介や趣味について話しました。その後、1人2分くらいずつ全員とトークタイムは「時間が足りない」と感じたそう。最後、15分ほどのフリータイムを経て解散。このイベントはカップリングの発表がなかったため、連絡先の交換は自由でしたが「みなさん、活発に交換していたことは予想外でした」と振り返ります。緑さんは男性5人と連絡先を交換しました。

イベント参加から2週間、思いがけないきっかけから告白を受けて交際スタート

イベントでは「フィーリングが合うかどうか、住まいが近隣市町村か、遊びではなく結婚の意思があるかを意識してお相手を選びました」と緑さん。連絡先を交換した5人のうちの1人とLINEのやりとりが始まりますが、雰囲気が合わずにフェードアウト。その後、連絡先を交換した1人に別件で用事があったところ、その男性から「あなたのことを良いと思っていた」と電撃告白されたのです。イベントから2週間後のことでした。

「こんなに日にちが空いて動き出すのは異例中の異例」と緑さん。それでも食事に行き、話してみると彼は「穏やかでいつもニコニコ。情緒が安定していて」まさに理想どおりの人だったのです。お話好きの緑さんと、聞き上手で切り返し上手の彼。人生観について深いところの話もでき、気づけば4時間も話していました。その後は、休日を合わせて美術館やカフェでデート。「話しても話しても話がつきることがない」と感じ、緑さんからお付き合いを提案しました。

現在の連絡は、LINEで1日1往復程度。緑さんはもっと頻繁に連絡を取り合いたい気持ちはあるものの「少しずつ慣れていくのかな」と思いつつ彼のペースに合わせてながら、穏やかにお付き合いは進行しています。

いつもの自分に勇気をプラス 緑さん流の「みんなで婚活」

「婚活イベントでは各人と話せる時間が3～10分程度と短いため、自己PRや聞きたいことなどをまとめていくと有意義」とアドバイス。また、カップリングがある場合、マッチングができなかった人とは連絡先を交換ができないことがあるので、パーティー中に連絡先を聞いた方がいいそうです。「恥ずかしい気持ちもあると思いますが、一期一会。全力を出し切った方が後悔しないはず」と話します。勇気を出すことで、新しい道がひらけそうです。

緑さんが声を大にして言いたいのは「場外戦（イベント後の取り組み）も頑張ろうということ」。あえてカップリングがないイベントを選んだ理由を「幅広い人と繋がりたいと思ったから」と言います。実は緑さん、過去の婚活イベントでも男性だけでなく、気の合いそうな女性とも連絡先を交換したことがあるのだそう。一緒に頑張れる婚活仲間とつながるためです。「婚活パーティーは、おしゃべりが苦手な方が多いのに加えて、タイムスケジュールがタイト。後でゆっくり、複数の人たちで話す場があった方がお相手のことがよくわかるんです」と言います。「パーティーをきっかけにつながりをつくり、みんなで頑張ろう、と婚活を広く発展させていく。これもひとつのテクニックかな」とニコリ。「みんなで幸せに」という思いが、幸せの輪を広げています。



参加した婚活パーティーについて

バラエティーに富んだイベント 気になる人がいれば臆せずに連絡先交換

参加したのは、ぐんま赤い糸プロジェクト（あいぷろ）のパーティー。同プロジェクトの趣旨に賛同し、県に協賛団体として登録した企業や団体や市町村などが主催する多彩なイベントです。企画によって募集人数や年齢の幅は違います。

申し込みは、名前や連絡先など必要事項を書いてLINEやメールで。定員を超えると抽選になります。

「受け付けました」とメールバックがあれば、申込完了。参加費は女性2,000～3,000円、男性は5,000円ほどが多かったそうです。

気になった相手をカードに記入しカップリングした相手と連絡先を交換するパターンと、カップリングはなくイベント開催中に連絡先を自由に交換するタイプがあります。どちらもイベント終了後、主催者に「気になる人がいたので連絡先を教えてください」と言っても個人情報保護の関係から、教えてもらえないそう。「気になったらその場で交換」が鉄則です。

「カップリングが発表されないイベントでは、スタッフが『連絡先を交換してください』と言ってくれるので、交換しやすい」雰囲気に。それでも「イベントで自分から積極的にアプローチする男性はほとんどいないので、『もう少し話したい』と思うなら女性の方からアクションを起こすのがおすすめ」と教えてくれました。